

IoT 新時代の未来づくり検討委員会 人づくり WG 障害者 SWG（第4回）

○日時：平成 30 年 1 月 15 日(月) 13:00～15:00

○プレゼンター

- ・国土交通省 原田様
- ・岸田構成員

○主な議論

【プレゼンテーションについて】

- ・(障害者の移動支援に関するオープンデータの利用について、) トイレが心配で外出ができないとの高齢者、障害者の声もある中で、現在国交省で検討しているフォーマットにおいては、トイレの種類等もフォーマットに取り込んでおり、検索可能としている。
- ・また、(誰もがデータを投稿できるようにすることとする場合の) データの信頼性の確保やデータの最新化は一つの課題。
- ・情報アクセシビリティ対応については、メインストリームベンダーと支援機器ベンダーの連携で前に進んでいくもの。特にメインストリームベンダーの対応については政策的な対応が必要。
- ・視覚障害の方に対するナビゲーションについては、(視覚障害用の信号機等の有無などの情報は現時点で取り込まれているものの) 正確な位置情報の測定、マップをスクリーンリーダーでどのように伝えるか、地図として自分の位置を俯瞰的にどう把握するか、といった課題が存在。

【主な論点等（案）について】

- ・スティグマの問題に IoT や AI の応用を示唆する文章があればよいのではないか。
- ・知的障害、精神障害、発達障害等の認知的な機能障害を持つ者に対し、技術の進展により意思決定支援ができないか。
- ・疑似体験は重要であるが、かえって弊害を招かないようにしなければならない。
- ・ICT を使い、障害者を支援する人をどのように支援するかを考えていくことが重要。
- ・情報アクセシビリティ政策を柱として位置づけることが必要。
- ・障害の程度も種類も人によって異なる中、周りがこういう ICT が必要だろうと考えるのではなく、その人それぞれの事情に応じ、本当に何が必要で、どんなものを使いたいと思っているのか考えることが必要。